

ドリフティングコラム

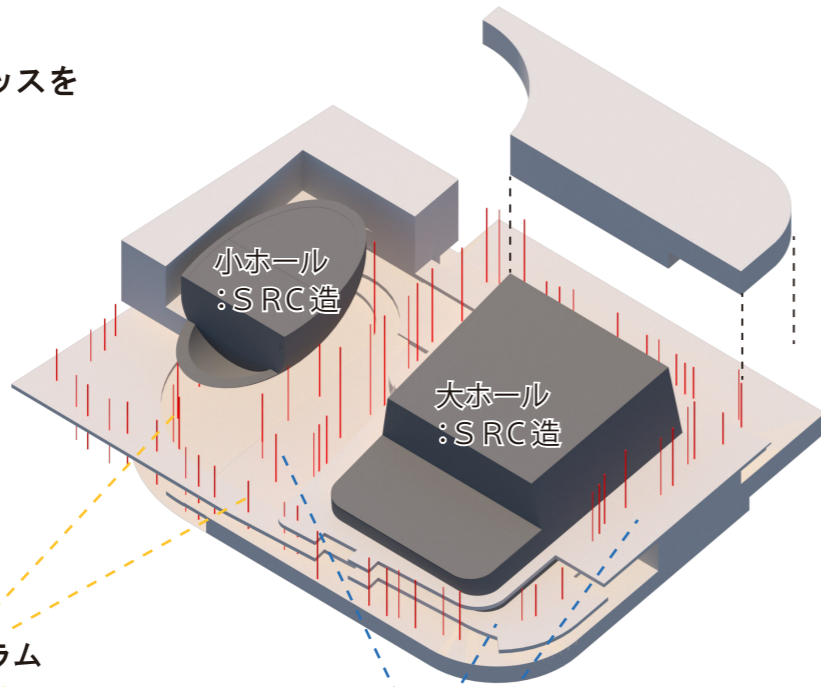
に導かれ、空間が段丘状のマスを削り取っていく

鍾乳洞のような空間性と瞑想性を兼ね備えた

災害文化と文化芸術をつなぐキッズスペース

ドリフティングコラム

災害文化と文化芸術をつなぐキッズスペース



・設計の理念と考え

東日本大震災被災地での復興まちづくり支援と災害公営住宅の設計に加え、他地域でも復興公営住宅の設計と復興拠点としての施設の提案を行ってきた。市民との復興まちづくり会議や景観づくりコンソーシアムの開催、ワークショップの実施をはじめとした、対話と交流を数多く重ねてきた経験がある。こうした知見を踏まえ、ハードの整備の前に大切なソフトとハードをつなげるコンセプトを市民と共に作り上げていきたい。

ホール計画においては、過去に同規模の施設の設計を経験している主任技術者を配置している。ホール本体のみならず、ホワイエ、楽屋、管理部門も含めた空間配置と動線計画を徹底して行なっている。しかしホール計画は日進月歩であるので、専門家との連携、使用する方々の意見集めを積極的に行い、施設の将来像の共有を通して、より良い施設づくりに繋げたい。

本計画は、震災メモリアル拠点・文化芸術総合拠点の2つの顔を持つプロジェクトである。

大切にしたい点は、

- 1 格式が高く、高い音響性能を持ったホールの計画、豊かなホワイエ空間
- 2 屋上庭園と一体利用できるなど多用途に使い、チャレンジングな形式の小ホールで多彩な活動を支える
- 3 稼働率が高く日常使うことの多い練習室やリハーサル室の充実、ホールとの連動
- 4 災害文化空間を開かれた共用空間として設けることで誰しもがいつもふれあい、感じあえる流動的な空間としている

・設計を進める上で特に留意すること

木造化・木質化)

木材活用を進めることにより、カーボンニュートラルに貢献するCO2削減に寄与します。

コスト管理について)

災害関連施設の入札不調などの起こる中、公営住宅設計時には、RC造ではなく木造で設計し、地元での施工を可能にするとともにコストダウンが図れた。また、地域の積算事務所と共同体を組むことでコスト調整をスムーズに行ってきた。今回は特に、大規模な施設であることも考慮し、全国規模で積算業務を展開する経験豊富なコスト管理技術者を配置している。

設計体制について)

構造設計、設備設計共にこうした施設の設計の経験を持つ技術者を配置している。実施の際には、これに加え音響設計、照明デザイン、ランドスケープ設計、家具什器のデザイン、ファブリックの制作設計、遮音設計などの専門家を加えたチームを構想している。施設の維持管理、長寿命化)

・コスト縮減に関する提案

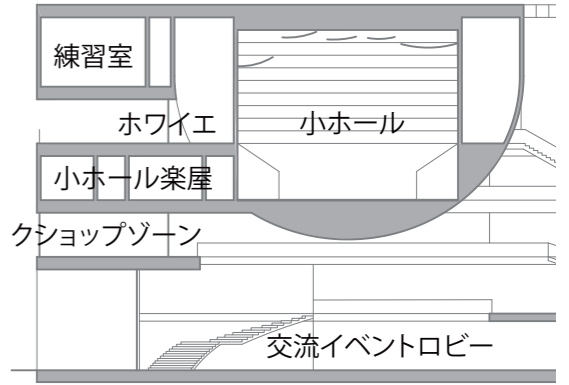
地下駐車場をやめ、敷地内地上駐車場とします。

NearlyZEBを目指した設計)

屋根には太陽光パネルを敷設、屋上緑化によって温熱環境をよいものにします。設備機器に関しては低環境負荷型を積極的に活用します。外皮性能、空調、換気、給湯、照明、昇降機について、性能の向上や効率の良い機種を選定、適切な制御を行います。空調機を高性能、ガラスはLOW-eを標準設計とし、断熱性能を上げて、建物の外皮から熱が外に逃げにくい仕様とします。照明はLEDとし、照明点滅をスケジュール管理し、PC等を介して、照明の点滅を設定・管理する室外機はCOPが高い製品、居室部にはマイコンタイプの全熱交換器を採用します。建築全体の日射遮蔽、外壁面のルーバーの採用を検討します。環境性能の高い施設とすることで、ランニングコストの大幅な削減を実現します。

・将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

将来の大規模改修で最も重要なポイントになると想定されるのは設備の更新である。本計画では、大ホールの機械室をホールの直上に設け、配管ルートを極力短く、シンプルにすることで、設備の大規模改修を簡潔に行い、かつフレキシブルに対応できるように配慮した。また、大規模改修の際にホールが一定期間稼働できないことを想定し、共用部空間で小規模のイベントが開催できるように配慮している。大ホールや小ホールで行われる本格的なコンサートや演劇は難しいと思われるが、市民にエンターテインメントを休むことなく提供できる場所でありたいと考えている。



太陽光パネル設置場所

